

修士論文

ソースコードの類似性に基づいたテストコード
自動推薦ツール

倉地 亮介

2020 年 1 月 28 日

奈良先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科 情報科学領域

本論文は奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科情報科学領域に
修士(工学) 授与の要件として提出した修士論文である。

倉地 亮介

審査委員：

飯田 元 教授	(主指導教員)
井上 美智子 教授	(副指導教員)
市川 晃平 准教授	(副指導教員)
崔 恩瀨 准教授	(京都工芸繊維大学)

ソースコードの類似性に基づいたテストコード 自動推薦ツール*

倉地 亮介

内容梗概

ソフトウェアの品質確保の要と言えるソフトウェアテストを支援することは重要である。これまでに、テスト作成コストを削減するために様々な自動生成技術が提案されてきた。しかし、自動生成されたテストコードはテスト対象コードの作成経緯や意図に基づいて生成されていないという性質から後のメンテナンス活動を困難にさせる課題がある。この課題の解決方法として、既存テストの再利用が有効であると考えられる。そこで、本研究では OSS プロジェクト上に存在する既存の品質の高いテストコード推薦するツール SuiteRec を提案する。SuiteRec は、類似コード検索ツールを用いてクローンペア間でのテスト再利用を考える。開発者から入力コードに対して類似コードを検出し、その類似コードに対応するテストスイートを開発者に推薦する。さらに、テストコードの良くない実装を表す指標を示すテストスメルを開発者に提示し、より品質の高いテストスイートを推薦できるように推薦順位を並び替える。提案ツールの評価では、被験者によって SuiteRec の使用した場合とそうでない場合でテストコードの作成してもらい、テスト作成をどの程度支援できるかを定量的および定性的に評価した。その結果、SuiteRec を利用した場合、(1) 条件分岐が多いプログラムのテストコードを作成する際にコードカバレッジの向上に効果的であること、(2) 作成したテストコードはテストスメルの数が少なく品質が高いこと、(3) 開発者はテストの作成を容易だと認識し、自身で作成したテストコードに自信が持てることが分かった。

*奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 修士論文, 2020 年 1 月 28 日.

キーワード

類似コード検出, 推薦システム, ソフトウェアテスト, 単体テスト

Automatic Test Suite Recommendation System based on Code Clone Detection*

Ryosuke Kurachi

Abstract

Automatically generated tests tend to be less read-able and maintainable since they often do not consider the latent objective of the target code. Reusing existing tests might help address this problem. To this end, we present SuiteRec, a system that recommends reusable test suites based on code clone detection. Given a Java method, SuiteRec searches for its code clones from a code base collected from open-source projects, and then recommends test suites of the clones. It also provides the ranking of the recommended test suites computed based on the similarity between the input code and the cloned code. We evaluate SuiteRec with a human study of ten students. The results indicate that SuiteRec successfully recommends reusable test suites.

Keywords:

clone detection, recommendation system, software testing, unit test

*Master's Thesis, Division of Information Science, Graduate School of Science and Technology, Nara Institute of Science and Technology, January 28, 2020.

目 次

1. はじめに	1
1.1 過去における研究	1
1.2 研究の目的と意義	2
2. 現状と今後の課題	7
謝辞	8
参考文献	9
付録	10
A. おまけその1	10
B. おまけその2	10

図 目 次

1	Convolutional Neural Network (CNN)	1
2	これは図の例	2
3	おまけの図	10

表 目 次

1	これは表の例	2
---	------------------	---

図 1 Convolutional Neural Network (CNN)

1. はじめに

はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに

はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに

1.1 節では、過去における研究について述べ、2 章では、現状と今後の課題について述べる。また、付録 A におまけその 1 を添付する。

1.1 過去における研究

過去における研究としては [1] などがある。

過去における研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去
における研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究

過去における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去
における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去に
おける研究 過去における研究 過去における研究

過去における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去
における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去に
おける研究 過去における研究 過去における研究

目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義

研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意
義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義

研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意
義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義

2. 現状と今後の課題

現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状
と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後
の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後の課題
現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題

現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状
と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後
の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後の課題
現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題

現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状
と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後
の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後の課題
現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題

謝辭

Thank you. Thank you.

参考文献

- [1] A. Krizhevsky, I. Sutskever, and G.E. Hinton. Imagenet classification with deep convolutional neural networks. In *Advances in Neural Information Processing Systems 25(NIPS'12)*, pages 1097–1105, 2012.

これはおまけの図です。

図 3 おまけの図

付録

A. おまけその 1

これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。
これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。
これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。
これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。

B. おまけその 2

これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。
これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。
これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。
これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。